



日本史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は、11 ページある。
2. これは、日本史 B の問題である。解答用紙が出願の時に選択した科目のものであるかどうかを確認のうえ、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験票と照合して受験番号が正しいかどうか確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入なさい。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえらないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. 試験時間は 60 分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 以下の文章は、古代から中世の日本女性の歴史について記したものである。文章内における a～e の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤の中から選び、マークしなさい。また、 ～ の中に入る最も適切な語句を記しなさい。

邪馬台国の卑弥呼が男王にかわり女王として推戴されたことに示されるように、古代社会においては女性が首長の座につくことは決して珍しいことではなかった。熊本県宇土市の向野田古墳は 4 世紀後半頃につくられた前方後円墳だが、この被葬者は女性首長であったことが確認されている。また、墳丘長約 280 m という 3 世紀後半に作られた前方後円墳としては最大規模を誇る奈良県桜井市の 古墳も、同じく被葬者は倭迹迹日百襲姫命と伝えられており、一説には卑弥呼の墓ではないかともされている。

律令国家の成立後も、わが国には多くの女帝が出現した。女帝が出現した背景としては、卑弥呼のように政争の緩和策としての役割のほか、幼年の皇太子が成長するまでのあいだの中継ぎとしての役割などが考えられる。夫と子が相次いで早逝したため孫の首皇子(聖武天皇)の成長を待たために即位した a 【① 皇極天皇 ② 持統天皇 ③ 元明天皇 ④ 元正天皇 ⑤ 孝謙天皇】(661～721)などは、中継ぎとしての女帝の典型的な例といえるだろう。

このように古代に女性の為政者が多く出現したのは、わが国において母系を重視する土壌があったためでもある。そのため、平安前期までの婚姻制度は、男女が別居のまま男が女の家に来るにゆく 婚が一般的であった。しかし、やがて平安中期に入ると、男が妻の両親の家かその近くに住む妻方居住婚(招婿婚)や、新たに新居を構える独立居住婚などが生まれていった。摂関政治期には、娘を入内させ、生まれた子を天皇とし、その外戚になることが重要な意味をもった。これも母系を重視する土壌が生みだした日本的な政治形態といえるが、有名な藤原道長は、娘三人を中宮にすることに成功しており、b 【① 一条 ② 三条 ③ 後一条 ④ 後朱雀 ⑤ 後冷泉】天皇(1009～1045)の後宮に入った嬉子も早逝してしまったものの、子供は天皇になっていることから、生きていれば存命中に中宮になったと思われる。そのほか、平安時代には天皇の母・后・皇女など

に女院の称号があたえられ、彼女たちは大きな政治力・経済力を発揮した。平安末期の八条院暲子は 3 天皇(1103~1156)の皇女であり、のちに八条女院領とよばれる膨大な荘園を支配した。しかし、古代から中世へと移り変わるなかで、父系を重視する風潮がひろがってゆき、婚姻形態もしだいに嫁入婚が一般化していくことになる。

鎌倉時代に活躍した女性としては、北条政子がよく知られている。政子は源頼朝の妻として、頼朝亡き後は“尼将軍”として幕府を支え、c【① 和田合戦 ② 源実朝の暗殺 ③ 藤原頼経の鎌倉下向 ④ 承久の乱 ⑤ 評定衆の設置】のときには、御家人たちを集め、幕府の恩をさとし聞かせ、彼らの動揺を抑えて忠誠を誓わせるなどの活躍をした。鎌倉時代には、女子も所領の相続権が認められており、源頼朝が小山朝光の母を下野国寒川郡・阿志土郷の地頭に任命したように、女性の地頭すらも存在していた。また、鎌倉時代には、女性の職人や芸能民も多く活躍しており、水干姿の男装で歌舞を供する芸能民であるd【① 大原女 ② 催馬楽 ③ 桂女 ④ 田楽 ⑤ 白拍子】などが知られている。しかし、鎌倉後期から所領の分割相続による零細化を危惧した御家人たちのあいだには、女性の所領相続を本人一代限りとする傾向も現れるようになる。このように、本人一代限りの支配を認め、本人の死後は一族に戻すことになっていた所領のことを、「4」と呼ぶ。こうして、しだいに女性の社会的地位は低下していくことになる。

室町時代には、将軍足利義政の正室日野富子が厭世的な義政にかわり幕府の財政を握り、活躍した。ただし、富子の政治活動については、実子 5 (1465~89)を将軍継嗣としようとしたことが応仁・文明の乱の原因の一つとなるなど、当時においても批判が絶えなかった。そのなかで、『公事根源』の著者として知られ、有職故実に秀でた公家のe【① 今川了俊 ② 二条良基 ③ 吉田兼俱 ④ 一条兼良 ⑤ 東常縁】(1402~81)は著書『小夜のねざめ』のなかで、「この日本国は和国とて、女のおさめはべるべき国なり」と述べて、富子の執政を肯定している。

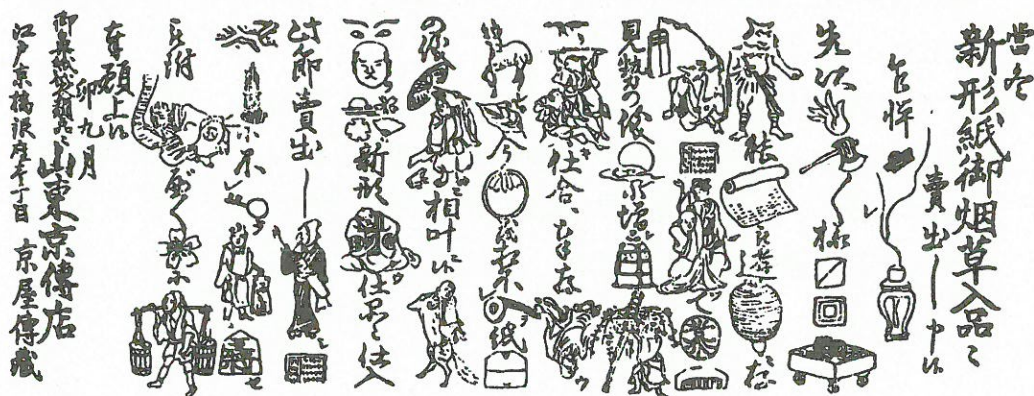
〔Ⅱ〕 以下の文章は、広告の歴史について記したものである。文章内におけるA～Eの【】に入る最も適切な語句を①～⑤から選び、マークしなさい。また、あ～おの中に入る最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。なお、以下に掲げる史料には現代かな遣いへの変更など一部修正を施している。

近世に入り農業や諸産業が発達すると三都を中心に高度な消費社会が出現した。とくに江戸は幕府の諸施設や全国の大名の屋敷(藩邸)をはじめ、旗本・御家人の屋敷が集中し、日本最大の消費都市となった。旺盛な消費意欲に対応して商業が発達し、またその競争も激化していったために、商人たちは様々な工夫をこらして消費者の心をつかむ方策を試みていった。

武家にあつては、戦の際などに敵味方に自己をはっきりと認識させるためのシンボルマークがその家の家紋や旗印であつたように、商売でもシンボルマークや商標(トレードマーク)は不可欠な存在であつた。弓矢のマークで「ゆ(み)や」＝「湯屋」(銭湯)、「十三里」で「栗より(9里+4里=13里)甘い甘藷」屋を示したようにその業界全体を表現するものもあつたし、個別の店舗ブランドをマークにしたものもあつた。店先あるいは部屋の境界に日よけや目隠しなどのために吊り下げ布であるあに自店の印を入れる場合や、看板のようなものもあり、多種多様であつた。なかでも「現銀掛け値なし」と表記し、定価販売を実質的に始めた三井呉服店、屋号い屋のマーケティングは著名である。同店は、従来の「見世物売り」や「屋敷売り」に対して「店前売り」を主力におき、イージーオーダーなどの多様な顧客ニーズに上手く対応していった。

また、17世紀後半の江戸駿河町出店の際は、現代でいえばチラシに相当する紙媒体の広告であるA【① 関札 ② 商札 ③ 私札 ④ 引札 ⑤ 富札】の大量配布を行い、大名や旗本だけではなく江戸の中産階級全体にターゲットを広げる工夫を展開した。しだいにこういった大衆広告手法は追随者を生み、江戸後期にかけて隆盛をむかえた。このような広告類に記されるのは一般には新商品や開店、バーゲンセールを告知する広告文であるが、紋切り型の宣伝文句はすぐに陳腐化してしまうため、宣伝文句を専門に考える人(コピーライター)へのニーズが生じた。当時流行りの戯作者や有名な学者、あるいは落語家がコピーライターと

してこれにかつぎだされたのである。讃岐高松出身の本草学・科学・戯作者で、寒暖計などを製作し、「西洋婦人図」でも著名な う (1728~1779)の「漱石香」という歯磨き粉のコピーなどが代表的なものであるが、なかにはB【① 鸚鵡返文武二道 ② 的中地本問屋 ③ 春色梅児誉美 ④ 江戸生艶気樺焼 ⑤ 好色一代女】で知られる山東京伝のように自ら小間物・売薬店を営み、自分の商品をたびたび自作に登場させることで宣伝広告に邁進する作家もいた。不安定な収入を補うために多くの作家が副業を営んだ時代である。彼の場合、広告も文字だけではなく、下のように絵文字混じりの判じ絵風のものもあり、解読する喜びを感じさせることで、江戸庶民の旺盛な好奇心を満足させようとした。下図を『蝸牛庵夜譚』のなかで「乍憚口上先以て各々様益々ご機嫌能御座被遊珍重に存じ奉り候…以下略…」と判読したのは、理想主義的作風で明皇帝の動乱の生涯を描いた『運命』などの著作があるC【① 坪内逍遙 ② 二葉亭四迷 ③ 幸田露伴 ④ 山田美妙 ⑤ 尾崎紅葉】(1867~1947)である。



庶民にとってみても陳腐な新鮮味を欠く広告はすぐに飽き、見向きもしなくなる。それに対抗して広告業界は様々な工夫を取り入れていった。たとえば、歌舞伎の幕間に、出演する人気役者ご来場の御礼とともに宣伝「口上」するような現代のテレビコマーシャルのような手法もあったし、さらに進んで、演劇の主題や絵画そのもののなかに商品や広告情報を入れ込む手法も開発されていた。

歌舞伎十八番の「助六」は山川白酒、福山うどん、朝顔せんべい、酔い覚ましの薬などの商品や実在の店が数多く登場するし、「外郎売」は小田原の「虎屋」発売の

丸薬の宣伝「口上」そのものが劇中劇の形で登場している。両者とも初演は二代目 **え** (1688~1758)によるもので、初代は坂田藤十郎の和事に対して荒事で名をはせた点も有名である。

19世紀初期に流行っていた南伝馬町の坂本氏販売の「美艶仙女香」という美白化粧品が役者絵や風景画のなかにたびたび登場しており、さらに十包購入すると人気役者のサイン入り団扇がもらえるというキャンペーンを展開したともいわれている。役者絵は現代でいえば、一種のプロマイドとしての側面もあり、多くのファンがお目当ての役者絵を楽しむ点に目をつけたプロモーションであった。文化文政期の役者絵では、東洲斎写楽や「役者舞台の姿絵・高麗屋」などのD【① 渡辺崋山 ② 伊藤若冲 ③ 司馬江漢 ④ 円山応挙 ⑤ 歌川豊国】(1769~1825)らが著名である。「仙女香」はさらに浮世絵のなかにも登場する。広重の「東海道五十三次」の「関宿」では、あわただしく朝出立の準備をする大名の一行の背後、本陣の玄関先に下がっている札に「仙女香」、「美艶香」の文字が描かれている。本来は宿泊する大名の名が記載されているはずの部分であるが、さりげなく商品広告に使っている。

この関宿は古代からの交通の要衝で、大友皇子の近江朝廷側と吉野の大海人皇子とが争った **お** の乱の頃に伊勢国鈴鹿関が固められたことに由来するといわれている。東山道の美濃国不破関などとともに古代E【① 三 ② 五 ③ 七 ④ 八 ⑤ 十】関の一つであった。

〔Ⅲ〕 以下の文章は、明治時代の政治について記したものである。文章内における(a)～(e)の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤から選び、マークしなさい。また、 ～ の中に入る最も適切な語句を漢字で記しなさい。

大日本帝国憲法の下では、立法・行政・司法の三権が分立して、それぞれが天皇を補佐することとされていたが、議会にはさまざまな制限が加えられていて、政府の権限は強かった。しかし、さまざまな制限があるものの、予算などの成立には議会の同意が必要であり、議会は政府に対して少なからず影響力をもっていた。1890年の第1回衆議院議員総選挙では、立憲自由党(のちに自由党と改称)や立憲改進黨などの民権派の流れをくむ民党が、吏党と呼ばれる政府系の党派をしのいで過半数の議席を占めた。そのため、日清戦争の直前までの初期の議会においては、予算審議などにおいて衆議院と政府との激しい対立がたびたび起きた。

日清戦争後、対立的であった政府と政党との関係には変化がみられるようになった。第2次伊藤博文内閣は自由党と連携し、 (1837～1919)が内務大臣として入閣した。この伊藤内閣のあとを受けて成立した第2次松方正義内閣は、1896年に結成された 党(立憲改進黨の後身)と共同歩調をとり、大隈重信が(a)【① 外務大臣 ② 内務大臣 ③ 司法大臣 ④ 大蔵大臣 ⑤ 農商務大臣】として入閣した。しかしそのあと成立した第3次伊藤内閣では、政府の政策は政党の意向に左右されないとする(b)【① 党派 ② 国家 ③ 帝国 ④ 超然 ⑤ 無政府】主義の立場がとられた。自由党と 党はともに、同内閣が議会に提出した地租増徴案に反対し、同案は否決された。衆議院は解散され、そのあとの総選挙では自由党と 党が合同して結成した憲政党が大勝した。その結果を受けて、伊藤内閣は退陣した。

第3次伊藤内閣のあと、日本で最初の政党内閣である第1次大隈内閣が成立した。陸軍大臣と海軍大臣を除き、大隈重信(首相)や (内務大臣)をはじめとして憲政黨員から閣僚が構成された。しかし、大隈内閣は組閣当初から内部対立に悩まされ、共和演説事件によって辞職した文部大臣 (1858～1954)の後任をめぐって内部対立は激化した。その後、憲政党は憲政党と憲政本

党に分裂して、大隈内閣はわずか4ヶ月余りの短命に終わった。

共和演説事件では、(3)の「仮に日本に共和政治が行なわれるとしたら、三井・三菱が大統領の有力候補となろう」という演説が問題視された。当時、三井と三菱は財閥の中でも産業界において特に大きな力をもっていた。多角化経営を行ない、財閥一族は持株会社を通じてグループ内の企業を支配した。たとえば、三菱財閥の持株会社は、1893年に設立された三菱(c)【① 株式 ② 合資 ③ 合名 ④ 有限 ⑤ 相互】会社であった。

大隈内閣のあとに成立した第2次山県有朋内閣は、憲政党と組んで、地租増徴案を成立させた。その一方で、山県内閣は政党の力をおさえるためにいくつかの制度を制定させた。まず、政党员が官吏になる道を制限するために、1893年に制定された(4)令を1899年に改正し、これまで任用資格規定のなかった各省次官などの高級官吏についても資格規定を設け、高級官吏の人事にも政党などの力がおよばないようにさせた。また、政党の影響が軍部におよぶことを防ぐために、1900年に軍部大臣現役武官制が制定された。これにより、現役の大将・中将以外は陸・海軍大臣になれないことになった。さらに、同年、治安警察法を成立させて、政治・労働運動の規制を図った。治安警察法の制定の目的には、当時活発化してきた社会主義思想や労働組合運動に対する取り締まりがある。たとえば、1901年に日本で最初の社会主義政党である社会民主党が結成されたが、治安警察法によって禁止された。ちなみに、この社会民主党の中心メンバーには、『廿世紀之怪物帝国主義』を著した(5) (1871~1911)がいる。

山県内閣による(4)令の改正などの政策によって、当初連携していた憲政党は山県内閣に対して批判的な立場をとるようになった。憲政党は伊藤博文に接近し、伊藤もまた政党の結成に積極的になり、1900年、伊藤を総裁とする立憲政友会が結成された。そして、立憲政友会を基盤として、第4次伊藤内閣が組閣された。一方、山県は立憲政友会に対立する立場をとり、貴族院や官僚が山県を支持した。

貴族院との対立に苦しめられた伊藤内閣は短命に終わり、これを機に伊藤と山県は第一線を退き、非公式に天皇を補佐する元老として、内閣の背後から政治に対して影響力をもち続けた。首相経験者など、明治時代の国家の建設に大きな貢

献をした有力政治家9名が元老に列せられた。ただし、明治時代に首相を経験した者のうち(d)【① 西園寺公望 ② 黒田清隆 ③ 松方正義 ④ 桂太郎 ⑤ 大隈重信】(1838～1922)のみ元老になっていない。

第4次伊藤内閣のあと第1次桂太郎内閣が誕生した。首相桂太郎は山県系の貴族院・官僚・軍部などを後ろ盾とした。そしてこのあと、桂と、伊藤の後継として立憲政友会の総裁となった西園寺公望が交互に内閣を組織するいわゆる桂園時代が訪れた。

桂園時代の明治末期、日本政府は、朝鮮半島の植民地化を進めるとともに、日露戦争の勝利で得た大陸進出の拠点の整備につとめた。南満州では、1906年に(e)【① 遼陽 ② 奉天 ③ 長春 ④ 大連 ⑤ 旅順】に関東都督府をおいて関東州(遼東半島南部の日本の租借地)の行政にあたらせるとともに、同年、半官半民の南満州鉄道株式会社を設立した。これらは日本の大陸進出のための橋頭堡となった。こうして、明治維新からたった30年強、日本は名実共に世界の列強のひとつとなった。

〔Ⅳ〕 以下の文章は、日本の満州進出について記した文章である。文章内における(A)～(E)の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤から選びマークしなさい。また、

ア	～	オ
---	---	---

の中に入る最も適切な語句を漢字で記しなさい。

日露戦争以降、日本は満州と呼ばれた中国東北部に権益を築いていった。1906年に設立された南満州鉄道株式会社を通して満州の経済的権益を確保し、さらに、関東軍と関東庁の存在は、日本政府の満州経営を民政面・軍政面ともに進める上で大きな役割を果たした。

中国では五・四運動の後、民族意識が高まり、欧米列強・日本からの影響力排除や辛亥革命以降、大きな勢力をもった軍閥の打倒を唱え、反帝国主義や民族運動が盛んに展開されるようになった。とりわけ、国民党政府は欧米列強に奪われていた権益を取り戻すべく、国権回復に取り組むようになる。このような背景の中で、国民党政府軍総司令であった

ア

 (1887～1975)は、1926年、北伐を開始し、国民革命軍を率いて軍閥打倒、中国全土統一を目指した。

国民革命軍による北伐が華北に近づくとつれ、日本政府は勢いが華北・満州に広がることを恐れ、日本人居留民保護を目的に(A)【① 大連 ② 山東 ③ 上海 ④ 天津 ⑤ 南京】へ3次に渡って出兵を行った。第1次の(A)出兵の後、田中義一内閣は東京で外交官や軍部首脳を集め東方会議を開き、満州での特殊権益を維持することを確認した。当時、満州を支配していたのは北洋軍閥の分派である(B)【① 直隸派 ② 安徽派 ③ 奉天派 ④ 山西派 ⑤ 西北派】を率いる張作霖であった。張作霖は日本政府や他の軍閥である段祺瑞らと協力をし、一時的に国民革命軍の華北地域への侵攻を防いでいたが、結果的には国民革命軍に敗北した。さらに、日本政府は国民党政府から満州には侵攻しないという約束を取り付けたため、張作霖を積極的に支援しなくなった。その一方、日本政府は満州での権益拡大を張作霖に要求し続けたため、張作霖は日本に協力しなくなっていった。

関東軍の一部の参謀らは、このような状況により満州の権益が弱まることを危惧し、満州を日本の支配下に置くことを目論んだ。1928年6月4日、北京を離れた張作霖の乗った列車が爆破され、張は殺害された。これは関東軍参謀

(C)【① 荒木貞夫 ② 永田鉄山 ③ 河本大作 ④ 山下奉文 ⑤ 真崎甚三郎】(1883～1953)の策謀であったが、関東軍は、この事実を隠蔽し、国民党の便衣隊(ゲリラ)の仕業であると発表した。当時の国内の新聞などメディアでは、この事件は「イ」という名称で報道され、野党であった立憲民政党はこの真相究明や責任を求めて田中内閣を糾弾した。さらに田中は昭和天皇からこの問題処理を巡り叱責され、内閣総辞職に追い込まれた。

張作霖の後を継いだ張学良は国民政府と手を結び、国民政府の勢力下に入った。また、(A)出兵後、満州をはじめとして中国の様々な地域で日本商品のボイコット運動である日貨排斥運動が起きた。同時に、中国の経済的な自立を求める運動も強まり、民族資本による様々な産業が勃興し、中国側は満州鉄道に並行した路線を建設するに至り、日本の産業は大きな打撃を受けた。

当時、日本経済は昭和恐慌と呼ばれる深刻な経済状況に陥っていた。企業倒産や操業停止が相次ぎ、街中には失業者が溢れた。農村では農産物価格の暴落や不作などの影響を受け、農村の経済は破綻寸前まで追い込まれた。このような経済的な状況を打破すべく、産業界や軍部から満州の特殊権益が再び注目されるようになった。すなわち、日本の経済問題を満州地域の活用により解決しようとする世論が強まる中で、満州は日本の「生命線」と認識されるようになった。

関東軍は、満州支配を進めるために、1931年9月18日に柳条湖で満鉄線路を爆破し、これを中国側の仕業であるとし、報復を名目として軍事行動を起こし、奉天・長春など満州の主要都市を次々に占領していった。満州事変勃発当時の内閣は第2次若槻礼次郎内閣であり、外務大臣はウ(1872～1951)であった。ウは従来、「協調外交」のもと中国に対して不干渉の立場をとり、若槻内閣も満州事変に対して不拡大方針の声明を発表した。しかし、関東軍はこれを完全に無視し、戦線を満州全土に拡げていった。新聞などマスコミはこのことを盛んに喧伝し、このような軍の行動を国民は支持し、熱狂していった。

若槻内閣は事変を收拾できず、国民の軍部への期待の高まりとともに国家主義の動きが強くなっていった。当時、このような国家主義思想に影響を与えた思想家として大川周明や北一輝らがあげられる。彼らは思想結社である(D)【① 青鞞社 ② 玄洋社 ③ 政教社 ④ 平民社 ⑤ 猶存社】を結成し、陸軍、海軍青年将校

を中心に国家主義思想を広めていった。とくに、1931年10月には陸軍の一部がクーデターを計画し失敗には終わったものの、このような不穏な動きは若槻内閣を退陣に追い込むこととなった。若槻内閣を弱腰外交と批判し、軍部と協力していた立憲政友会へ政権が移行し、総裁の犬養毅が総理大臣となった。

関東軍は1932年2月までに東三省を占領し、満州全土を掌握すると、1932年3月に清朝最後の皇帝であった溥儀を執政に据えて「満州国」の建国を宣言し、事実上の支配権を握った。犬養内閣は満州国承認を渋っていたが、犬養毅は急進的な海軍将校に五・一五事件にて暗殺され、代わって海軍大将の(E)【① 岡田啓介 ② 斎藤実 ③ 鈴木貫太郎 ④ 宇垣一成 ⑤ 広田弘毅】(1858～1936)が内閣を組織することになった。

中国政府は国際連盟にこのことを日本の侵略行為であると提訴した。国際連盟は満州問題を調査するためにリットンを派遣し、調査結果をリットン報告書としてまとめた。この報告書は、満州に対する中国の主権を認め、日本軍の満州からの撤退を要求したものの日本の満州権益を認めるなど、日本側にある程度配慮した内容であった。しかし、(E)内閣は軍部の主張を重視し、リットン報告書発表の直前に満州国を承認し、満州国との間で満州における日本の既得権益を認め、日本軍駐屯を了承した エ を取り交わした。

リットン調査団の報告書をもとにした満州の中国主権の確認と、日本軍の撤退を勧告した国際連盟の決議案が賛成多数で可決され、全権の松岡洋右は直ちに連盟総会場を退場し、日本政府は国際連盟脱退を通知した。日本政府は国際社会から孤立の道を歩むことになったのである。日本軍は中国との間で1933年5月に オ 停戦協定を結び、日本の力で満州国の建設を進め、1934年に満州国を帝政とし、溥儀が皇帝になった。満州には日本の政治・経済の諸問題を解決する「生命線」としての期待がますます強まり、多くの日本人が移民として満州に渡っていった。